

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：13101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26861852

研究課題名(和文) ストレス対処能力の高い医療チームリーダーを育成するEラーニング教材の有効性の検討

研究課題名(英文) Evaluation of a web-based program to educate multidisciplinary team leaders with high tolerances for stress

研究代表者

横野 知江(西澤知江)(YOKONO, Tomoe)

新潟大学・医歯学系・准教授

研究者番号：50579597

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は皮膚・排泄ケア認定看護師が医療チームのリーダーとして組織を管理する知識とスキルを身につけると共に、活動に対する精神的サポートを含めた教育をすべく、調整力及びストレス対処力を教育するプログラムを開発し、その有効性について検証した。その結果、プログラム実施前後の調整力尺度及び心理的well-being得点には統計学的有意差は見られなかった。しかしながら、本プログラムは、【ストラテジー習得】【頭や心の整理可能】【勇気づけられる】内容であり、本プログラムを真に必要としている対象者にフォーカスを当てた内容に改善し、物理的負担を軽減することで、有効なプログラムとして活用できる可能性が示唆された。

研究成果の概要(英文)：This study developed and evaluated an E-learning program for wound, ostomy and continence nurses (WOCNs) that was designed to improve their knowledge and skills for organizing a care team for pressure ulcers in a hospital and supporting WOCNs' mental health. The scores of the collaborative skill scale for WOCNs and the Ryff's Scales of Psychological Well-Being were not significantly different before and after the intervention. However, the participants mentioned that this program enabled WOCNs to "learn strategies for organizing a care team for pressure ulcers in a hospital and managing WOCN's stress" "organize WOCN's thought and sort out the mind" and "give oneself reassurance." Next step, this program focused on those who require to improve their knowledge and skills for organizing a care team for pressure ulcers in a hospital and supporting WOCNs' mental health and reduced the volume of contents. In the future, a revised program will be useful for WOCNs.

研究分野：基礎看護

キーワード：皮膚・排泄ケア認定看護師 褥瘡管理 調整力 ストレス対処 Eラーニング

1. 研究開始当初の背景

安全で質の高い医療が要求される一方で、医療の高度化・複雑化に伴う業務の増大により、医療現場の疲弊が指摘されるなど、医療の在り方が根本的に問われる今日、「チーム医療」の重要性はますます高まっている。特定分野の医療チームの中で、多職種の連携、調整を行う役割として認定看護師が存在する。中でも、褥瘡ケアを専門とする皮膚・排泄ケア認定看護師 (Wound, Ostomy and Continence Nurse ; 以下 WOCN) は、2006年の褥瘡ハイリスク患者ケア加算制度設立以降、褥瘡対策チームの褥瘡管理者となることが施設基準として設けられ、チームリーダーとしての役割を担い、褥瘡を組織的に管理することが期待されるようになった。しかし、その一方で、WOCN は、多職種との連携の困難さ、組織横断的な活動の困難さに直面している。また、管理者や周囲の理解不足、相談できる相手がいないといった状況で、膨大な褥瘡管理業務を行わなければならない非常にストレスフルな状況で働いている者も存在する。以上のことから、認定看護師が医療チームのリーダーとして組織を管理する知識とスキルを身につけると共に、活動に対する精神的サポートを含めた教育が必要といえる。

2. 研究の目的

ストレス対処能力の高い医療チームリーダーを育成する E ラーニング教材を開発し、その有効性を評価することである。

3. 研究の方法

(1)開発の経緯

先行研究において、以下の手順で教育プログラムの開発をすすめてきた。まず、教育プログラムの開発にあたっては、インストラクショナルデザインの理論に基づいた ADDIE (Analysis Design Development Implement Evaluation) モデルを参考にした。このモデルは Analysis:分析、Design :

設計、Development:開発、Implement:実施、Evaluation : 評価の5つのフェーズから構成されている。

Analysis:ニーズの分析

学習のニーズでは、現実と理想のギャップがある。そこで、まず先行研究によって WOCN が褥瘡管理体制を組織化するために必要な能力を解明した。具体的には WOCN18 名にインタビューを行い、インタビュー内容から質的帰納的に WOCN が褥瘡管理体制を組織化するために必要な能力を明らかにした。その結果 WOCN が褥瘡管理において他職種と協働するためには、褥瘡管理に関わる医療者の立場や特徴を踏まえた調整を、職階を踏まえて組織的段階的に行うことが重要であることを示唆した。次に、ストレス対処力については、先述した WOCN18 名にインタビュー内容から、WOCN が褥瘡管理においてどのようなストレスを抱えているのかについて、2次解析をし、42項目のストレスが抽出された。さらに研究者である WOCN4 名から、エキスパートオピニオンを得て、42項目のストレスを7カテゴリに分類した。

Design : 教育プログラムの目標設定

本研究では教育プログラムの目標設定より進めた。目標はニーズ分析の結果を踏まえ、)WOCN が褥瘡管理体制を組織化するための能力を身につけることができる、)ストレス対処力を身につけることでできるとした。

Development : プログラム内容と教材

プログラムは、多忙な WOCN が時間や場所の制約なく、自分のペースで学習できる E ラーニング方式とした。プログラム内容は、目的に合わせ2部構成とした。第1部は、「褥瘡管理のための調整力アップ」である。初めに先行研究により開発した調整力尺度を使用し、現段階でどの程度調整力が身についているか自己採点をし、その結果をチャート図にて確認し、自己フィードバックを行う。次

に、褥瘡管理に関わる職種に対して、組織的段階的に調整スキルを発揮するプロセスを具体的に学習する。第2部は、「ストレスマネジメント」である。はじめに、7カテゴリ42項目からなる褥瘡管理に特有のストレス一覧を用いて、自分のストレス状態を把握する。次に、一般的なストレスマネジメント方法を学習するため、認知行動療法に基づいて開発されたストレスマネジメントプログラム(step1~4)を実施する。次に、ストレス事例集から自身が抱えるストレスにどのように対処したらよいか学習を深める。このストレス事例集は7カテゴリ42項目からなる、WOCN特有の褥瘡管理に関するストレス一覧を、機縁法でリクルートした全国のWOCN26名に配布し、自身が経験したストレス項目について具体的に事例を提供してもらい作成した。本事例集は、具体事例と共に、提供事例におけるストレス、ストレス反応及びそれらの対処方法を、著者及びWOCNである研究者2名、ストレスマネジメントの専門家1名により分類をし、一覧にした。さらに、本プログラム内に掲示板機能を搭載し、褥瘡管理に関する悩みやストレスなどを自由に書き込みできるようにした。

(2)研究デザイン

開発したプログラムの介入による前後比較研究とした。

(3)対象

2014年9月にアドバンススキンケアに関するセミナーの参加者及び機縁法にて本研究に協力の同意が得られた病院で褥瘡管理に関わるWOCN80名とした。

(4)調査期間

2014年10月から2015年3月までであった。

(5)プログラム実施方法

プログラム実施期間を3か月間として実施した。プログラム開始後1週目に事前調査をプログラム終了前1週間に事後調査を行った。

(6)調査内容

メインアウトカムとして、プログラム実施前後に、調整力及び心理的well-beingを測定した。プログラム実施前には、デモグラフィックデータとしてK10、SOC-13、WOCN特有の褥瘡管理に関するストレスを調査した。また、プログラム実施後、プログラムを実施した感想を対象者にメールにて自由記載でアンケートをとった。

調整力

調整力自己評価尺度を使用した。各医療者別に、病棟管理者、スタッフナース、医師、病院管理者、褥瘡管理メンバーから構成されている。当尺度の問いは「あなたはWOCNとして以下の活動をどのくらいの頻度で行っていますか」であり、回答は「常に行っている」(5点)から「全く行っていない」(1点)の5件法で評価した。但し「実施する必要がない」場合には5点を配点した。

心理的well-being

心理的well-being尺度を使用した。自律、環境支配、自己成長、他者との前向きな関係、人生の目標、自己受容から構成される。回答は「全くそう思わない」(1点)から「非常にそう思う」(6点)の6件法で評価し、得点が高いほど心理機能良好とした。

K10

精神疾患のスクリーニング尺度であるK10を使用した。質問は10項目から構成され、回答は「全くない」(1点)から「いつもある」(5点)の5件法で評価し、総点が25点以上の者を抑うつ傾向とした。

SOC-13

SOCスケール日本語版を使用した。SOC-13は把握可能感、処理可能感、有意味感から構成される。回答は「いつもある」(1点)から「全くない」(7点)の7件法で評価し、得点が高いほどストレス対処力が高いとした。

WOCN特有の褥瘡管理に関するストレス

「Analysis:ニーズの分析」時に作成した

WOCN 特有の褥瘡管理に関するストレス一覧で自己評価できるように尺度化したものを使用した。褥瘡ケアのジレンマ、管理者の不理解、医師の態度、タイムプレッシャー、横断的活動のための基盤不足、病棟における介入困難、WOCN としての葛藤から構成される。回答は「そう思わない」(1点)から「すごくそう思う」(5点)の5件法で評価し、得点が高いほどストレスが高いとした。

本研究は金沢大学医学倫理委員会及び日本創傷・オストミー・失禁管理学会倫理・メンバーシップ委員会の承認を得て実施した。

(7) 分析

本研究の目的である4つ観点から分析を行った。

参加者が本プログラムをどのように使用したか

参加者のプログラム実施状況を記述統計によって評価した。

本プログラムを実施することで、調整力及びメンタルヘルスはどのように変化したか

介入前後における調整力尺度及び心理的 well-being 尺度の得点変化で評価した。統計学的解析は paired t-test を実施した。

修了者の特徴は何か

修了者群と中断者群について、デモグラフィックデータ、調整力尺度、心理的 well-being 尺度、K10 尺度、SOC-13 尺度、WOCN 特有の褥瘡管理に関するストレスを比較した。

統計学的解析は Pearson 's chi-square test、t-test を実施した。

今後役立つプログラムにするための改善点は何か

プログラムを実施した感想について、返信内容をコード化し、内容の類似性に基づき分類し、カテゴリ化を行い、記述統計を行った。

統計解析には IBM SPSS Statistics Version 23 for Windows を使用し、統計学的有意水準は5%とした。

4. 研究成果

(1) 結果

参加者は本プログラムをどのように使用したか

プログラムにエントリーした対象者は80名であった、そのうち、事前調査に回答した者が72名であった。第1部まで実施した者は49名、第2部まで実施した者が36名であった。そのうち、事後調査を回答した者は10名であった。

プログラム修了群36名と中断群13名のデモグラフィックデータのうち、勤務条件において統計学的有意差が見られ、修了群では専従が23名(63.9%)、中断群4名(30.8%)と修了群の方が、専従の割合が高かった($P=.05$)

本プログラムを実施することで、調整力及びメンタルヘルスはどのように変化したか

本プログラム修了者10名のプログラム実施前後の調整力尺度及び心理的 well-being 尺度の下位概念の得点変化について統計学的有意差は見られなかった。

修了者の特徴は何か

統計学的有意差がみられた項目は、調整力尺度の病院管理者(5項目合計点)において、修了群14.5(±4.8)点、中断群19.1(±4.4)点($P=.004$)、SOC-13尺度の合計得点において、修了群55.2(±1.9)点、中断群58.3(±1.9)点であった($P=.004$)。心理的 well-being 尺度の下位概念、K10尺度、WOCN 特有のストレスではいずれも修了者群と中断群間に統計学的有意差は見られなかった。

今後役立つプログラムにするための改善点は何か

回答者は修了者7名、中断者8名、コード数は86であった。修了者において、ポジティブな感想として複数回答があったカテゴリは、プログラム内容について【頭や心の整理可能】4名(57.1%)、【ストラテジー習得】

4名(57.1%)、【関心もてる】2名(28.6%)であった。ネガティブな感想として複数回答があったカテゴリは、プログラム内容について【時間不足】3名(42.9%)、【現実とのギャップ】2名(28.6%)、【できない自分に直面】2名(28.6%)、掲示板について【勇気が必要】3名(42.9%)、システムについて【操作の煩雑さ】2名(28.6%)、質問紙について【不適切なフィードバック】2名(28.6%)であった。今後臨むこととして複数回答があったカテゴリは、【実用化を希望】2名(28.6%)であった。

一方、中断者において、ポジティブな感想として複数回答があったカテゴリは見られなかった。ネガティブな感想として複数回答があったカテゴリは、プログラム内容について【時間不足】4名(50.0%)、システムについて【操作の煩雑さ】2名(25.3%)、質問紙について【物理的負担】2名(25.3%)であった。今後臨むこととして複数回答があったカテゴリは見られなかった。

(2) 考察及び今後の展望

本研究では、開発したプログラムを実施し、4つの観点から本プログラムの有効性を評価し、今後の実用可能性を検証した。その結果、いくつかの示唆が得られたので以下に考察する。

参加者は本プログラムをどのように使用したか

プログラム修了群36名と中断群13名のデモグラフィックデータの特徴を比較すると、修了群の方が専従である割合が高かった。本プログラムは、褥瘡管理に特化した内容となっており、特にWOC業務に大半を費やし、褥瘡管理の中心的役割を担っている専従のWOCNに必要とされる内容であったと考える。一方、兼任の場合、管理職や病棟での一般業務など多様な勤務形態があり、本プログラムの内容が個々の働き方とそれに伴うストレスに適切に合致していなかった可能性が考えられた。

本プログラムを実施することで、調整力及びメンタルヘルスはどのように変化したか

本プログラムを修了した対象者10名において、実施前後における調整力得点及び心理的well-being得点に統計学的に有意な得点変化は見られなかった。本プログラムの実施期間は、3ヶ月であったことから、対象者の明らかな行動変容が見られなかった可能性が考えられた。しかしながら、プログラムのポジティブな感想として【ストラテジー習得】【頭や心の整理可能】などが挙げられていたことから、プログラム実施後のフォローアップにより、学習効果が期待できると考える。

修了者の特徴は何か

調整力尺度では、病院管理者の合計点で修了群の方が中断群より統計学的に有意に得点が低かった。先行研究ではWOCNを対象とした調査において、上司からの支援がよく得られているWOCNは、役割遂行の得点に有意に高いと報告されていることから、上司との関係を良好に保つ調整力を発揮することが、褥瘡管理の役割遂行を円滑にすると考えられる。学習は何故これを学ばなければならないのかといった、何等かの関連性を見出せないと学習者を動機づけることは困難であると言われている。つまり、病院管理者との関係ができていないと自己評価しているWOCNは調整力やストレス対処力を必要とし、プログラムを継続した可能性が考えられた。

SOC-13尺度では、修了群の方が中断群より統計学的に有意に得点が低かった。また、中断群の平均SOC得点は58.3点であり、先行研究で報告されている一般成人よりストレス対処力が高かったと言える。本研究の対象者は、セミナー参加者を対象としていたことから、比較的褥瘡管理に対する意識が高いWOCNであった可能性がある。以上から、本プログラムの継続可能性には、対象者自身

の調整力及び潜在的なストレス対処力が影響していたと考えられた。

今後役立つプログラムにするための改善点は何か

プログラムを有用とするポジティブな感想があった反面、ネガティブな感想として心身の負担感があった。特にプログラム内容について、修了群から意見として【現実とのギャップ】【できない自分に直面】が挙がった。本プログラムは、先行研究における実態調査より、WOCNに必要な能力及びストレスを明らかにし、内容を構成した。しかしながら、プログラム開発の段階において、WOCNの時代による役割変化によって、求められる能力や生じる問題が本プログラム内容と多少異なった可能性が考えられる。このことから、プロセス評価を行うことで、より対象に適した内容構成にすることができた可能性がある。

以上より、役立つプログラムにするために、本プログラムを真に必要としている対象者にフォーカスを当てた内容にするとともに、多忙なWOCNが時間や場所の制約なく、自分のペースで学習できる質、量に改善する必要がある。そこで、より現実に即すため、調整力の振り返りをすると共に、WOCNのストレス対処事例集によって、自身のストレスにどのように対処すべきか参考にできるシンプルな内容のプログラムに改変した。さらに、研究目的で行った調査を大幅に削減し、物理的負担を軽減したプログラムとなっている。

本成果は、現在日本創傷・オストミー・失禁管理学会ホームページに掲載し、本邦のWOCNに広く活用できるようになっている。これにより、WOCNが医療チームのリーダーとして組織を管理する知識とスキルを身につけると共に、活動に対する精神的サポートを受けることが可能となる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計1件)

横野知江,真田弘美,須釜淳子,他9名.
皮膚・排泄ケア認定看護師経験年数別にみた褥瘡管理に関する調整力自己評価尺度の活用可能性の検討.日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌.20(1):32-42,
2016.査読有

〔学会発表〕(計4件)

横野知江,須釜淳子,真田弘美,他7名.
皮膚・排泄ケア認定看護師特有のストレス解決に向けたアプローチの検討.
第25回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会,金沢歌劇座・社会福祉会館,
・エルフ金沢・金沢東急ホテル(石川県金沢市),2016年6月11,12日.

横野知江.皮膚・排泄ケア認定看護師のストレス対処方法の実態.新潟看護ケア研究学会第7回学術集会,新潟大学医学部保健学科(新潟県新潟市),2015年10月17日.

横野知江,須釜淳子,中山和弘,他1名.
コミュニティサイト利用による皮膚・排泄ケア認定看護師のメンタルヘルスへの効果.第24回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会,幕張メッセ(千葉県千葉市),2015年5月30,31日.

西澤知江,真田弘美,紺家千津子,他6名.
皮膚・排泄ケア認定看護師の経験年数と調整力の関連.第23回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会,大宮ソニックシティ(埼玉県さいたま市),
2014年5月16,17日.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横野 知江 (YOKONO, Tomoe)
新潟大学・医歯学系・准教授
研究者番号:50579597